



朝九小だより

朝霞市立朝霞第九小学校

令和7年 1月31日 (金)

2月号 児童数 394名

TEL: 048-466-4481

<http://www.asakada9shou.city-asaka.ed.jp>

【学校教育目標】 「心豊かでたくましい人間の育成」

すすんで学ぶ子 思いやりのある子 たくましい子

【めざす学校像】 「元氣なあいさつと明るい笑顔で輝きのあ

今、この瞬間を大切に生きていこう！

校長 小林 美加

2月は、寒さが最も厳しく雪も多い季節といわれていますが、暦の上では2日に「節分」、3日に「立春」を迎え、春が始まります。厳しい冬を乗り越えてこそ、春に美しい花が咲き薫るといわれるように、校庭の木々や校長室の胡蝶蘭も新しい芽がでたり、つぼみがふくらんだりして、春の訪れを感じさせてくれています。

3学期に入り約1ヶ月経ちましたが、おかげさまで子供達は落ち着いて学校生活を送り意欲的に学習に取り組んでいます。晴れの日が多いためか寒さを感じる日も少なく、増築された新校舎の白い壁が冬の日差しを受けて、まるで完成を喜び、光を放っているかのように見えます。校庭も元の広さに戻り、運動場も整備され、新しいバスケットボールのゴールが設置され、元気よく遊ぶ子供達の姿が見られ嬉しく思います。まだインフルエンザ等の感染症も流行っていますので、生活のリズムを整えて、体調を崩さないように気を付けて過ごしてほしいと願っています。体調が悪いときには、無理をさせず、家でゆっくり休養するなど、ご家庭でも健康管理等、ご協力をよろしくお願いいたします。

さて全校朝会では、先日92歳でご逝去された谷川俊太郎さんの「生きる」という詩を紹介しました。この詩は6年生の国語の教科書にも掲載されています。「生きているということ いま生きているということ」で始まるこの詩の中で、谷川俊太郎さんは、生きているということ、日常の中のちょっとした出来事や感覚、風景を通じて語っています。最初に出てくる「のどがかわく」「木もれ陽がまぶしい」といった感覚は、毎日の生活の中では当たり前のものに思えるかもしれませんが、それこそが生きている証であり、瞬間なのだと思います。また、「泣けるということ」「笑えるということ」「怒れるということ」「自由ということ」とつなぎ、最後は「いのちということ」で締めくくっています。この詩を通して、今この瞬間を大切に、日常の中で感じる小さな喜びや悲しみ、自然の美しさを見つけることの大切さを改めて感じるができます。子供達には、今「生きていること」の素晴らしさと感謝の気持ちを忘れずに、今、この瞬間を大切に過ごしてほしいと思います。そして、全ての子供達が幸せになってくれることを願っています。

地域や保護者の皆様の中にも、子供の頃に国語の授業や読書の時間に谷川俊太郎さんの作品に触れたり、子育ての時に読み聞かせをしたりした経験をお持ちの方もいらっしゃると思います。谷川俊太郎さんは、「詩は学ぶものではなく、楽しむものです。」という言葉を残しているそうです。ご家庭でも「いま生きているということ」について話し合ってみていただけたら幸いです。2月も引き続きご協力の程よろしくお願いいたします。